



桜 通 信



学ぶ力や生活力の土台となる

“自尊感情”を育み、高めるために!!

桜谷小学校の学校教育目標は「一人ひとりが喜びと充実感を味わえる学校～あたたかい人間関係を通して～」です。これは、学力や生活力を身につけ、豊かな生活を送るための土台となる力、「自尊感情」を育む学校づくりを目指したものです。

では、この「自尊感情」とは一体どのようなものなのでしょうか。一般的には、自尊感情とは自分自身を価値のある存在だと感じる感覚だと言われています。自分自身を好きだと感じることで、自分を大切に思える気持ちのことです。どんな人にも長所もあれば、短所もあります。また、上手くいった体験もあれば、失敗談もあります。当然、できることとできないこともあって当たり前です。それらの「短所もある自分」「失敗もする自分」「できないこともある自分」、そんな自分もひっくり返して、自分自身を価値のある大切な存在だと肯定的に受け止める気持ちのことです。ですから、「自尊感情」と「自己肯定感」とは、同じものだとも言えます。

このような、「自尊感情」の高い子どもたち（もちろん、大人も同じです。）は、何事に対しても積極的に取り組み、困難に出会っても粘り強く努力することができます。しかし、自尊感情の低い子どもたちには「どうせ、自分は何をやってもだめだ。無理だ。」とすぐにあきらめてしまう傾向があるようです。また、対人関係においても、自尊感情の高い子どもは、他人からの賞賛や批判に余り影響されませんが、自尊感情が低い子どもは、周囲からの評価がとても気になり、その評価によって感情や行動が不安定になる傾向があるということです。

つまり、私たち大人は、子どもたちに「頑張って学習に取り組む子」「友だちと仲良く遊べる、協力できる子」に成長して欲しいと願っていますが、それには土台となる「自尊感情」を育み、高めることこそが大切なのです。そのために心掛けたい4つのポイントをあげてみます。

ポイント①

悲しい気持ち、悔しい気持ち、嬉しい気持ち、そんな子どもの気持ちを受け止め、共感することが大切です。例えば、ぐずぐず泣いている子どもにイライラしたり、感情的に接したりするのは禁物です。



ポイント②

大人から見れば、小さな「できた」も、その努力の過程を認めていくことが大切です。今、精一杯の努力の結果かも知れません。大きく欲張ってしまい「もっとできるでしょ？」は禁物です。



ポイント③

兄弟姉妹や友だちと比べて頑張らせようとすることはなく、過去の本人と比べ、認めたり、励ましたりすることが大切です。「お兄ちゃん、漢字テストいつも100点だったわよ」ではなく、「前より、漢字テスト10点もあがったわね」です。

ポイント④

子どもが失敗した時に怒らない。「だからダメだっていったでしょ。」ではなく、「次はきっと上手くいくよ。また、頑張ればいいよ。」です。失敗してしまい、がっかりしている子どもの気持ちを癒やす存在になることが大切です。

このように、私たち大人が、子どもの気持ちを受け止め、共感し、認めるような日々の小さな関わりの積み重ねこそが、子どもたちの自尊感情を育み、高めていくことに繋がっていきます。

また、本校では、体験学習や縦割り活動、そして地域の多くの人との関わりの中で、自分の得意なことだけでなく、苦手なことも知り、さらに、お互いへの思いやりの気持ちを発揮することが自尊感情を育むためには必要だと考え、積極的に取り組んでいます。

ちなみに、桜谷小学校の子どもたちはアンケートの中で「自分には良いところがあると思う」「先生は私の良いところを認めてくれている」と答えている子の割合が高くなっています。これは、自尊感情が子どもたちの中に育っている現れだとも考えられます。これからも子どもたちを認め、支えていく中で自尊感情を育んで行きたいと思います。

(校長 深井 実)



長寸山登山（縦割り活動）